連合
ビジョン

働くことを軸とする安心社会

—まもる・つなぐ・創り出す—

日本労働組合総連合会

未来に向かって**挑戦**し、
希望あふれる**未来**へと
変えていくことができるのは、
私たち自身である。

連合30周年の決意

▶連合は、これまで大切にしてきた価値観や積み上げてきた運動や政策を継承・発展させ、大きな時代の変化に対しても果敢に挑戦していく。

▶連合は、働く仲間一人ひとりの参加のもと、社会に広がりのある運動をつくりあげていく。

▶連合は、積極的な社会対話を通じ、様々な課題の解決を着実にはかっていく。

私たちが
未来を変える

今、超少子化・高齢化社会の真っ只中、さらに第4次産業革命により、私たちの生きる社会が今後大きく変わろうとしています。

そうした中で、すべての働く仲間が、将来に希望を持って働き続けることができるのか?生活者がみな安心してくらしていくことができるのか?その問いに対して、答えを出していかなければなりません。私たちの未来を、持続可能な社会、誰一人取り残されることのない包摂的な社会に変えていくのです。

連合は、「働くこと」に軸を置き、働く仲間一人ひとりの尊厳とくらしを「まもり」、働く仲間・地域社会を「つなぎ」、社会・経済の新たな活力を「創り出し」ていきます。そして、そのために、すべての働く仲間・生活者の身近な存在として、助けが必要なときに寄り添い、ともに進む、頼りになる拠りどころへと飛躍していきます。

連合はこれまでの運動から「まもる・つなぐ・創り出す」の運動へと再構築をはかります。取り巻く変化に対応し、すべての働く仲間・生活者の先頭に立って力強く展開していくため、志をともにする仲間とともに、未来を変える運動をすすめていきましょう。

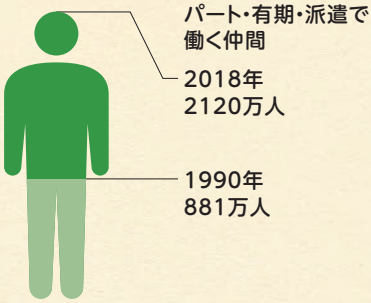
日本労働組合総連合会
会長　神津　里季生

1

私たちの未来を どのようにとらえるか

現　状

パート・有期・派遣等で働く仲間が増加。雇用の流動化と不安定化、貧困の固定化と格差の深刻化が進行。

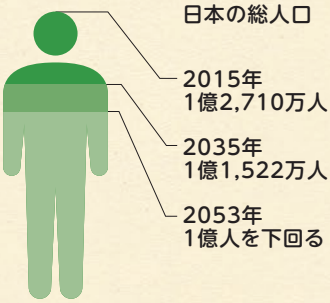


急増する高齢者が地域でくらし続けられるよう、社会保障機能がより重要に。

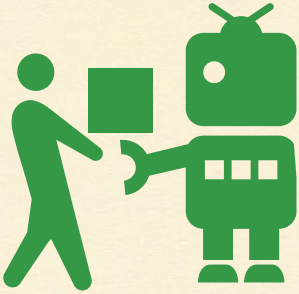
気候変動など地球規模の課題に対して、国際社会と協力した対応が必要。

これから

人口減少と超少子高齢化が進行する中、持続可能な地域社会の実現を。



AI、IoT等の技術革新は生活者の利便性を向上させるとともに、経済効果も。新たな付加価値の公正な分配を。



グローバル化の進展などに対して、労働組合もグローバルに連帯。SDGsの達成など包摂的成長、平和で公正な世界の実現を。

2

連合がめざす社会像とは

これまでに運動の基軸としてきた価値観を継承し深化させた社会像を確認しました。それは、働くことに最も重要な価値を置き、誰もが公正な労働条件のもと、多様な働き方を通じて社会に参加でき、社会的・経済的に自立することを軸とし、それを相互に支え合い、自己実現に挑戦できるセーフティネットが組み込まれている活力あふれる参加型社会です。

加えて、**「持続可能性」と「包摂」を基底に置き、年齢や性、国籍の違い、障がいの有無などにかかわらず多様性を受け入れ、互いに認め支え合い、誰一人取り残されることのない社会です。**

To the
FUTURE

3

社会像の実現に向けた新しい運動「まもる・つなぐ・創り出す」

働く仲間一人ひとりを「まもる」

働く仲間一人ひとりの声に耳を傾け、問題解決の力となる存在になります。働く仲間一人ひとりに焦点をあてた運動をすすめ、すべての働く仲間を「まもり」ます。

働く仲間・地域社会を「つなぐ」

働く仲間の輪を広げ、地域活動・地域社会へと「つなぎ」、地域社会を支えます。また、こうした労働組合の新しい魅力に共感した仲間とともに活動する「参加の好循環」を定着させます。

社会・経済の新たな活力を「創り出す」

多様なステークホルダーとともに、社会・経済の新たな活力を「創り出し」ます。そして、その活力を働く仲間の立場で未来を切り拓くための原動力としていきます。

働く仲間一人ひとりを**まもる**ために

働く一人ひとりは弱い存在です。
働く仲間一人ひとりの声に耳を傾け、
一人ひとりに焦点をあてた運動をすすめるとともに、
集団的労使関係を確立し拡大していきます。

多様な働く者の法的保護の取り組み推進を含めた
ワークルールを整備・強化していきます。

給付と教育訓練と雇用のマッチングを兼ね備えた
セーフティネットづくりをすすめます。

人生の早い段階から働くことの意味を考え、
ワークルールの知識を身につけることができるように
労働教育を充実させます。

3

働く仲間・地域社会を**つなぐ**ために

年齢や国籍の違い、障がいの有無などにかかわらず、
働く仲間とその家族を含め、
多様性の受容できる社会・職場をつくります。

労働組合の運動として地域づくりの一翼を担い、
地方連合会・地域協議会が地域や
ステークホルダーとの「結節点」となります。

中小企業との対話を重ねるとともに、
中小組合への支援を通じて、地域経済を支えます。

連合がめざす社会は、
国内の取り組みだけでは実現できません。
国際労働運動などを通じた社会対話を促進します。

社会・経済の新たな活力を**創り出し**て行く

一人ひとりの働きがい・生きがいを生み出し、
社会・経済の新たな活力の原動力とするため、
人を大事にする企業・組織を広く追い求めます。

すべての働く仲間の知見・経験を、
社会・経済の新たな活力を創り出すエネルギーとし、
社会・産業を横断する社会課題を解決します。

企業レベルでの**「人への投資」**、
働く者がスキルアップできる社会的仕組みづくり、
誰もが**働く場と学ぶ場を自由に**
行き来できる仕組みを確立します。

すべての人が働きがいをもって人間らしく働ける、
「誰一人取り残されることのない」社会をめざします。

4

5つの安心の架け橋

橋Ⅰ 学ぶことと働くことをつなぐ

- すべての子どもたちに学ぶ機会の保障、教育の無償化
- すべての子どもを包摂する教育の推進
- 労働教育のカリキュラム化の推進
- 連帯、共生による発展をめざす教育の充実
- 学ぶ場から働く場への円滑な移行のための環境整備
- 生涯を通じて学び続けられる環境の整備

橋Ⅳ 離職から就労へつなぐ

- 職業訓練と公正な能力評価、雇用のマッチング機能のパッケージ戦略の構築
- すべての労働者に雇用保険と社会保険を適用
- 離職者や就業経験の少ない人への支援制度の拡充
- 「生活保障給付」制度の確立
- 住居と医療の確実な保障

基盤 「働くことを軸とする安心社会」を支える基盤

- 公正・公平な信頼のおける政府の確立
- 所得再分配機能の強化、分かちあいの社会の実現
- 企業の社会的責任の履行促進と生産性運動の深化
- グリーンでディーセントな産業・雇用の創出と持続的成長
- 自然災害への備えと人口減少・超少子高齢時代の地域社会づくりの推進

2035年の社会を展望した「連合ビジョン」を実現するため、就労をめぐる様々な困難を取り除き、人々を「働くこと」に結びつけていくための5つの「安心の橋」を架けることを中心とする政策・制度体系（政策パッケージ）を合わせて策定しています。

橋Ⅱ　くらしと働くことをつなぐ

- すべての人が働き続けられる公平・公正なワークルールの確立
- 多様な働き方・生き方が選択できる社会の構築
- 子ども・子育て、介護を社会全体で支える仕組みの構築
- 性やライフスタイルに中立的な税制や福祉・社会保障制度への改革、居住・医療保障の確立

橋Ⅲ　働くかたちを変える

- 良質な雇用の拡大と完全雇用の実現
- ディーセント・ワークの実現
- 働く側が選択できる働き方の多様化の実現
- 多様化などに対応した集団的労使関係システムの構築
- コンプライアンスの徹底、ワークルールの整備
- 雇用分野の性差別の禁止、賃金格差の是正、男女平等の実現

橋Ⅴ　健康・長寿社会をつくる

- 誰もが希望すれば生涯にわたり働き続けられる社会の構築
- 社会的貢献など「働くこと」の幅広い選択肢とアクセスを保障
- 安心と信頼の所得保障制度の整備・普及
- 健康で長生きできるための医療・介護保障

5

【参考】運動理念の変遷

「労働を中心とした福祉型社会」（2001年）

めざすべき社会像の提起

「働くということに最も重要な価値を置き、すべての人に働く機会と公正な労働条件を保障し、安心して自己実現に挑戦できるセーフティネットがはめこまれた社会」。

発展

「働くことを軸とする安心社会」（2010年）

めざすべき社会像の継承・発展

「働くことに最も重要な価値を置き、誰もが公正な労働条件のもと多様な働き方を通じて社会に参加でき、社会的・経済的に自立することを軸とし、それを相互に支え合い、自己実現に挑戦できるセーフティネットが組み込まれている活力あふれる参加型の社会」

※働くことの意味を深掘りしたこと、対象を雇用労働だけでなく、家事労働や地域の問題解決の自発的取り組みなども含むものに広げたことなどが発展のポイント。

連合評価委員会「最終報告」（2003年）

労働運動への問題提起

労働組合員が自分たちのために連帯するだけでなく、社会の不条理に立ち向かい、自分よりも弱い立場にある人々とともに闘うことが必要（すべての働く者が結集できる労働運動への深化）。

反映

その実現のための政策パッケージの提起

「目指すべき社会像だけでは具体的イメージがわかない」との意見を踏まえ、働くことを軸にすえ5つの安心の橋と基盤を、2020年を目途とする政策パッケージを作成。

「人口減少・超少子高齢社会ビジョン」
検討委員会「最終報告」
（2018年）

環境変化を見据え、
最終報告でまとめた
取るべき針路の要素を
新たに盛り込む

これまでに運動の
基軸としてきた価値観を
継承し深化させる

「持続可能性」と
「包摂」基軸に置く

5つの安心の架け橋、
政策パッケージの補強

連合ビジョン
「働くことを軸とする安心社会
ーまもり・つなぐ・創り出すー」

目指すべき社会の実現にむけ、政策面は充実させてきたが、運動面の強化が課題。

運動への参画の輪を広げ、すべての働く者を結集できる運動強化の項目を新たに盛り込む。

2015年9月
国連「持続可能な開発目標」
（SDGs）

2019年1月
ILO「仕事の未来世界委員会」
報告書『輝かしい未来と仕事』

編集・発行:日本労働組合総連合会
〒101-0062　東京都千代田区神田駿河台3-2-11
TEL:03-5295-0550

⬅連合ビジョン全文はこちら

2019年10月